



amazon.com

029 THE BEGINNER'S GUIDE TO ENVIRONMENT, SOCIAL, GOVERNANCE

企業のコスト要因に経済合理性をもたらすのが「ルール」

● ルールが「経済合理性」を変化させる

ESG 課題が山積した原因のひとつに、企業の「経済合理性」の捉え方があります。企業が環境破壊や人権侵害をしてきた背景には、廃棄物投棄や労働者の長時間労働などが、短期的利益を上げるための「経済合理性」に適合と考える「オールド資本主義 (P.20)」的発想がありました。この考え方が時代錯誤なのは明白です。

かつてナイキは児童労働への関与が明るみに出て不買運動が起き、大きな損失を被りました。日本でも従業員の過労自殺が問題になった居酒屋チェーンで顧客離れが起きました。

企業が問題を起こすたびに、世界中で新たなルールがつけられてきました。そのひとつである ESG は「短期的利益の追求」が行き過ぎた反省から生まれた、「社会課題の解決」に「経済合理性」をもたらす「ニュー資本主義 (P.20)」への画期的なルール・チェンジでした。環境、社会、ガバナンスに関する物事の良し悪しを明確にし、「企業が ESG 課題の解決に貢献すること」=「利益」になるように経済合理性をもたらしたのです。

ナイキは過去の過ちから学び、サプライヤーの労働環境や児童労働を含む人権問題の解決に真摯に取り組みました。その結果、いまでは社会的責任を果たす企業として高く評価されています。その変化なくして同社の現在の繁栄はなかったでしょう。長い目で見れば、ESG 課題への対応は、のちの利益の源泉になったともいえるのです。

残念ながら日本では依然、ESG 課題への対応をコスト要因と考えがちですが、対応しないほうがよほどコスト要因なのです。

● ルールが変われば、「利益がコスト」「コストが利益」に変わる

オールド資本主義

《投資家》: すぐに利益を出せ!
短期的利益のためなら手段は選ばない!

《消費者》: とにかく安く高品質の商品を!
児童労働を使えば儲かる!

《企業》: 児童労働、不法投棄、長時間労働

利益の源泉

ESG (世の中のルールが変わる)

ニュー資本主義

《投資家》: ESG対応をしないのなら投資しない!
倫理的でないことはできない!

《消費者》: ESG対応をしないのなら買わない!
今までの「利益の源泉」はリスク要因に!

《企業》: 児童労働、不法投棄、長時間労働

莫大なコストの要因に

ESGによって「利益の源泉」は「リスク要因」に!
「オールド資本主義」的発想はリスクにしかならない

まとめ

- ルール・チェンジはコストに新しい経済合理性をもたらす
- ESGはかつての「コスト」を「利益の源泉」に変えた

Part 3

目を覚まして日本企業は世界に取り残される

今さらかもしれませんが、E(環境)S(社会)G(ガバナンス)について、さっと理解できる本。図が多く、気軽に学べる。

ESG経営、よく言われてなんとなく概要はわかるけど、実は詳細（定義とか）はよくわかっていないかも、

という人にはちょうどよさそう。（私がそうでした）

(目次)

PART1 ビジネスパーソンが押さえておくべき現代のキーワード

ESGとはいったいどのようなものか?

- 001 いったい「ESG」とは何なのか?
 - 002 「E」の「環境」とは具体的にはどんなこと?
 - 003 「S」の「社会」とは具体的にはどんなこと?
 - 004 「G」の「企業統治」とは具体的にはどんなこと?
 - 005 なぜ、ESGが注目されるようになってきたのか?
 - 006 ESGに対するスタンスはおおまかに4つに分けられる
 - 007 「ESG」と「SDGs」の違いと関係性を理解する
 - 008 「ESG」と「CSR」「CSV」の違いを理解する
 - 009 経済は「リニア」から「サーキュラー」の時代に
 - 010 ESGの視点はもはや一時的なトレンドではない
 - 011 新型コロナはESGを加速させるきっかけになった
- Column 菅首相「2050年カーボン・ニュートラル」の狙い

PART2 これからの時代の投資のスタンダード 投資の世界で存在感を増す「ESG投資」

- 012 アナン元国連事務総長が提唱した「PRI」とは?
 - 013 投資のスタンダードになりつつある「ESG投資」とは?
 - 014 ESG投資とSRI(社会的責任投資)の違い
 - 015 世界の投資残高は30兆ドル超! 急増するESG投資額
 - 016 国内の流れを大きく変えたGPIFのESG投資に対する考え方
 - 017 GPIFは一部の資産で7つのESG指数に連動する運用をしている
 - 018 「ESG投資額」の国内市場規模は310兆円にまで増えている
 - 019 ESG投資を行う機関投資家の7つのESG投資手法
 - 020 ESG投資をめぐる欧米の機関投資家の動きを知る
 - 021 ダイベストメント(投資撤退)--投資対象から外される企業とは?
 - 022 2020年に入って急増した個人向けサステナブル投資残高
 - 023 気になるESG投資のリターンはどのようなかを見てみよう
 - 024 ESG投資が活発化するとどうなるの?
- Column バイデン政権で変わる米国の環境問題への対応

PART3 ESGのデファクトは欧州が主導している!

目を覚まさない日本企業は世界に取り残される

- 025 日本企業はESGに「配慮」している場合ではない!
 - 026 このままではグローバル市場で日本製品は「アウト」になる
 - 027 世界標準から大きくズレる日本の「リサイクル」の捉え方
 - 028 「ハード・ロー」と「ソフト・ロー」を理解する
 - 029 企業のコスト要因に経済合理性をもたらすのが「ルール」
 - 030 「ルール」と「イノベーション」の正しい関係とは?
 - 031 ESGのスタンダードづくりは欧州が主導している
 - 032 自らでルールをつくる欧州企業、政府のルール化を待つ日本企業
- Column 気になる「中国」の環境問題への対応のいま

PART4 ESGを実践するのは企業経営の常識に!

なぜ大企業は「ESG経営」を推し進めるのか

- 033 「ESG経営」とはいったいどんな経営を指すのか?
 - 034 積極的なESG経営がもたらすわかりやすい3つのメリット
 - 035 「トリプルボトムライン」という考え方の理想と現実
 - 036 企業が「非財務情報」の開示に力を入れる理由
 - 037 「ウォッシュ」をした企業は大きな代償を払うことになる
 - 038 日本企業が知らなければいけない2つの「行動規範」
 - 039 日本取引所グループが公表した「ESG情報開示実践ハンドブック」
 - 040 ESGにおける情報開示ルール1「GRIスタンダード」
 - 041 ESGにおける情報開示ルール2「SASBスタンダード」
 - 042 ESGにおける情報開示ルール3「TCFD提言」
 - 043 乱立する非財務報告の統一基準の策定へ動き出した
 - 044 ZホールディングスのESGデータ集を見てみよう
 - 045 役員報酬をESGに連動させる企業が増えているワケ
 - 046 「DX」なくして「ESG経営」の実現はできない
- Column 日本も無視できない「欧州グリーン・ディール」

PART5 消費者に支持されれば心強い味方になってくれる!

ESGを推進するには「消費者」を巻き込め

- 047 環境や社会へのインパクトを考慮する「エシカル消費」とは?
 - 048 世界の「エシカル消費市場」のいまを見てみよう
 - 049 欧州では当たり前になりつつある「エシカル消費」の現在を知る
 - 050 消費者は「不買運動」という武器をもっている
 - 051 Z世代、ミレニアル世代の「エシカル」に対する意識は高い
 - 052 企業は消費者から監視されていることを意識する
 - 053 「企業人」としても「消費者」の気持ちを忘れないことが大事
- Column 「中国」の人権問題に見る日本と世界の対応

PART6 早くから動き出せば大きなベネフィットが期待できる

中小企業にこそESGはチャンスをもたらす

- 054 ESG経営をしなければ大企業と取引できなくなる!?
 - 055 中小企業に融資する銀行はESGを見るようになってきている
 - 056 中小企業も、できることを「攻め」と「守り」で考える
 - 057 「バックキャスティング」「アウトサイド・イン」で考える
 - 058 ポイント1 経営陣が積極的に関与する
 - 059 ポイント2 明確なマテリアリティ(重要課題)を設定する
 - 060 ポイント3 ESGの視点を盛り込んだ目標を立てて実行する
 - 061 ポイント4 社内にESGの意識を浸透させる
- Column 経済成長を牽引するアジアの気になる「ESG」

PART7 先進的な実践事例からESGを学ぶ

ESG経営を行う大企業の戦略を見てみよう

- 062 事例1 欧米主導のルールを変えさせた「ダイキン工業」
- 063 事例2 国際規格に合致したバイオ燃料を開発した「ユーグレナ」
- 064 事例3 「花王」のESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」とは
- 065 事例4 物言う株主を社外取締役招聘した「オリンパス」
- 066 事例5 日本初のESG目標と連動する社債で資金調達した「ヒューリック」
- 067 事例6 サステナビリティに邁進するアパレル大手「インディテックス」
- 068 事例7 広い視野でESG活動を行う「スターバックス」